

平成17年度行政評価結果の公表について

平成17年8月29日
市長公室

1 公表の趣旨

効率的で効果的な市政の実現を目指すとともに、市政の透明性を高め、その内容を市民によりわかりやすく説明するために取り組んできた行政評価について、平成17年度第1回目の評価結果を公表するものである。

2 公表の内容及び方法

(1) 内容

行政評価システムの概要、事務事業評価結果、施策の達成度評価結果、施策の貢献度評価結果・・・別紙のとおり。

(2) 方法(時期)

- ① 「ウェブもりおか」掲載 平成17年8月29日
- ② 市の主要施設への備付け 平成17年9月
- ③ 「広報もりおか」掲載 平成17年10月1日号
- ④ 報道機関への資料提供 平成17年8月29日

3 今後の予定

- (1) 第2回 平成17年12月 施策の優先度評価結果、平成18年度施策の重点化基本方針
- (2) 第3回 平成18年3月 事務事業優先度評価結果、事務事業事前評価結果、大規模公共事業の評価結果、平成18年度予算編成方針

平成17年度行政評価結果（振り返り評価結果）の概要について

1 事務事業評価結果について

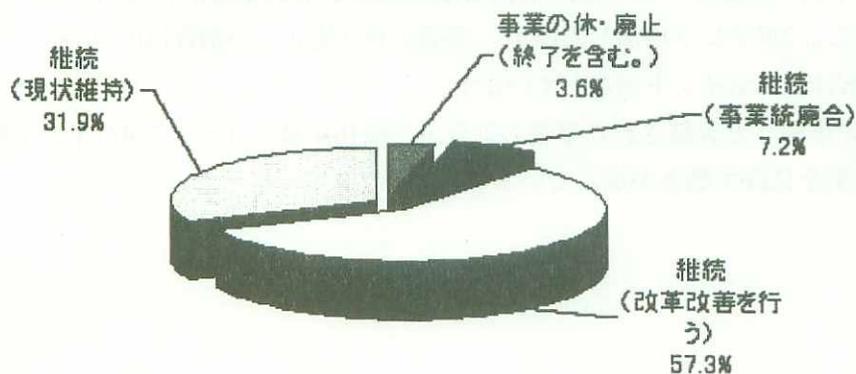
平成16年度に本市が行ったすべての行政活動（事務事業）について、それぞれの事業の対象、手段、意図（目的）を明確にし、事務事業の進め方、効率性、向上余地等について評価を実施しました。

事務事業を実施した課による一次評価、その事務事業の属する施策の主管課長による二次評価を行いました。各事務事業の今後の方向性についての二次評価の結果は次のとおりです。

◎ 事務事業評価二次評価結果

		平成17年度	
		事務事業数（件）	割合（％）
事業の休・廃止（終了を含む。）		38	3.6
継続	（事業統廃合）	77	7.2
	（改革改善を行う）	611	57.3
	（現状維持）	340	31.9
合 計		1,066	100.0

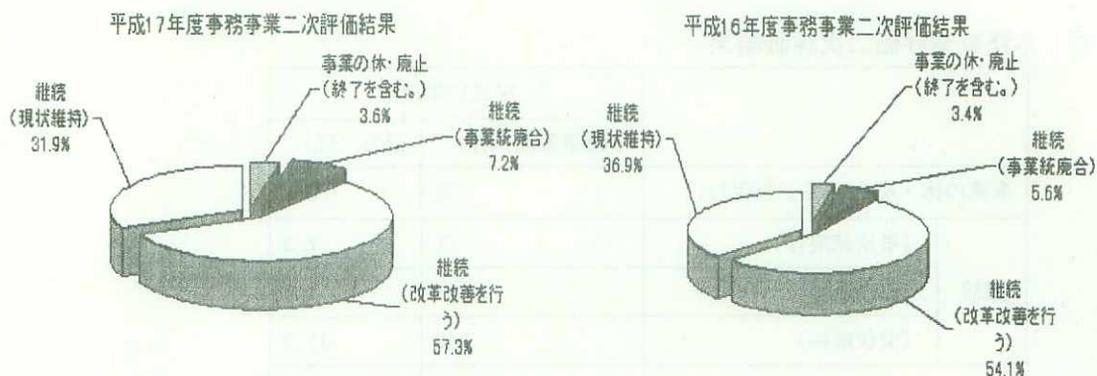
平成17年度事務事業二次評価結果



また、この二次評価の結果を前年度の評価結果と比較すると、次ページのようになっています。

◎平成17年度事務事業評価二次評価結果と平成16年度事務事業評価二次評価結果の比較

		平成17年度		平成16年度	
		事務事業数(件)	割合(%)	事務事業数(件)	割合(%)
事業の休・廃止(終了を含む。)		38	3.6	37	3.4
継続	(事業統廃合)	77	7.2	61	5.6
	(改革改善を行う)	611	57.3	590	54.1
	(現状維持)	340	31.9	402	36.9
合 計		1,066	100.0	1,090	100.0



平成17年度の事務事業評価の結果は、「改革改善を行う」と評価された事業の割合が、平成16年度に比べて3.2ポイント増加したほか、「事業の休・廃止」の割合は0.2ポイント、「事業統廃合」の割合は1.6ポイント増加しています。

一方で、「現状維持」と評価された事業の割合が平成16年度に比べて5.0ポイント減少しており、事務事業を見直す動きが進んでいます。

2 施策評価結果について

第三次総合計画にあげたまちづくりの基本目標を達成するために6つの政策を掲げ、それを38の施策に分類し、①第三次総合計画の初年度である平成7年度と平成16年度の水準比較（経年比較）、②東北各県県庁所在都市等との比較（近隣等比較）、③住民の期待する水準との比較（住民期待比較）の三点から成果水準を評価し、また、市の施策が及ぼす影響力を検証し、施策の達成度・貢献度評価を行いました。

平成17年度施策の貢献度評価（振り返り）

		成果向上に市の施策が及ぼす影響力			
		かなり大きい(市主体)	やや大きい(市主体・他団体)	やや小さい(国・県主体)	小さい(住民の取組み主体)
成果水準	高い	C1 IV-19 上水道 IV-24 消防・防災体制の充実	C2 I-02 市街地の整備 IV-20 下水道 IV-26 自然・歴史的環境の保全と活用	C3	C4
	やや高い	III-10 生涯学習環境の整備	I-01 土地利用計画の推進 III-12 社会教育の充実・スボレクの振興 III-13 文化の振興 III-15 研究学園都市の形成 IV-17 住宅 IV-21 廃棄物処理 VI-38 地方分権の促進		I-04 情報通信機能の整備
	普通	IV-16 生活道路 IV-22 火葬場・墓園 IV-28 花と緑のまちづくり	I-03 総合交通体系の整備 III-11 学校教育の充実 IV-18 公園緑地 IV-25 自然災害の防止 IV-29 公害の防止 V-32 高齢者福祉の充実 V-33 保健・医療の充実 VI-34 市民参加の促進 VI-36 イメージアップの推進 VI-37 広域行政の推進		II-07 商業・サービス業の振興 II-09 勤労者福祉の充実 III-14 国際交流の推進 V-30 コミュニティ作りの促進
	やや低い		IV-27 都市景観の形成	V-31 市民福祉の充実	
	低い	VI-35 行財政運営の効率化	II-05 農林業の振興 II-06 工業の振興 II-08 観光・物産の振興 IV-23 防犯・交通安全の推進		

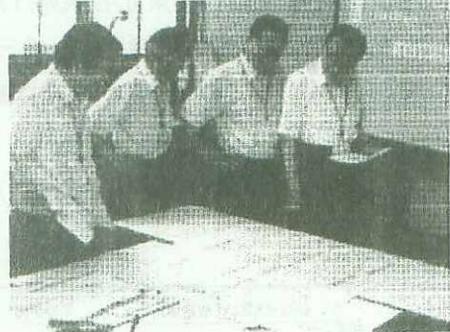
また、平成16年度が第三次総合計画の実施最終年度であったことから、今回の施策評価では「第三次総合計画の振り返り」と「新総合計画への申し送り事項」の2点についても、各施策毎の評価シートに記述しました。

盛岡市における行政評価

平成17年度行政評価 | 平成16年度行政評価

盛岡市は、平成13年度から行政評価システムの構築に取り組んでいます。

多くの市民の皆様がこの行政評価システムをご覧いただき、盛岡市の行政活動についてのご理解と、盛岡市政を改革・改善するうえでのご意見をいただきたいと考えています。



【担当】 盛岡市市長公室行財政改革推進課
電話:019-651-4111 (内線)3662,3663
E-Mail: gyoukaku@city.morioka.iwate.jp

平成17年度行政評価

平成17年度は、行政評価の結果を3回に分けて公表する予定です。
1回目として、「平成17年度行政評価の概要」及び「平成17年度振り返り評価結果」について公表しました。

[>>こちらをクリックしてご覧下さい。](#)

<今後の公表予定>

2005年12月 施策の優先度評価結果, 平成18年度施策の重点化基本方針

2006年3月 事務事業優先度評価結果, 事務事業事前評価結果, 大規模公共事業の評価結果, 平成18年度
予算編成方針

[画面上へ](#)

平成16年度行政評価

平成16年度に盛岡市が実施した行政評価について、内容を公表しています。

[>>こちらをクリックしてご覧下さい。](#)

[画面上へ](#)

平成17年度行政評価

平成17年度行政評価について | 平成17年度振り返り評価結果

平成17年度行政評価について

本市が取り組んでいる行政評価についてシステムの概要やシステム構築の目的、スケジュール、評価体制などについてお知らせします。

1. 行政評価とは

- (1) 行政評価とは何か
- (2) 行政評価は何のために行うのか
- (3) 行政評価によって何が変わるのか
- (4) これまでの事務事業見直しとどこが違うのか
- (5) 評価結果を何に反映させるのか
- (6) どのような仕組みか
- (7) 評価の内容はどのようなものか

2. 構築スケジュール

3. 評価体制

4. 職員の研修状況

平成17年度振り返り評価結果について

平成16年度に盛岡市が行った行政活動について、施策単位と事務事業単位に行った評価結果をお知らせします。

1. 事務事業評価

[>>平成17年度事務事業評価結果シート](#)

2. 施策の達成度評価

[>>平成17年度施策達成度評価結果シート](#)

3. 施策の貢献度評価

[>>平成17年度施策の貢献度評価\(振り返り\)結果集計表](#)

[>>施策の貢献度評価\(振り返り\)結果シート](#)

[画面上へ](#)

行政評価について

行政評価とは | 構築スケジュール | 評価体制 | 職員の研修状況

行政評価とは

行政評価とは何か | 何のために行うのか | 何が変わるのか | これまでとどこが違うのか
何に反映させるのか | どのような仕組みか | 評価の内容

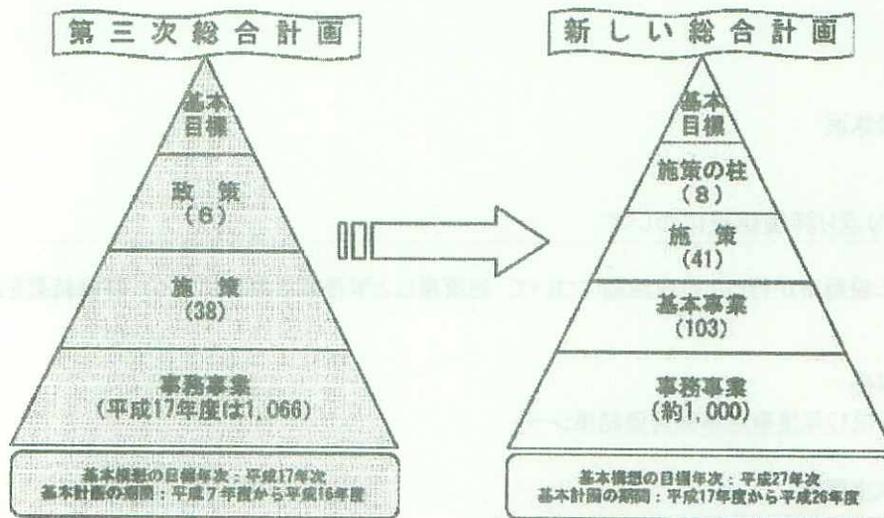
(1) 行政評価とは何か

行政評価は、効率的で効果的な市政の実現を目指すとともに、市政の透明性を高め、その内容を市民によりわかりやすく説明するための手段です。

本市が行う様々な事業を対象に、事業の目的や成果・効果をできるだけ数値化してわかりやすくするとともに、行政として果たすべき役割を踏まえ、事業の必要性や上位の施策及び政策に対する位置付け、あるいは事業環境の変化や事業の特性などについて総合的な視点から整理・点検を行い、その結果を総合計画の策定、行政改革、予算編成などに活用することによって、効率的で質の高い市政運営を実現することを目指しています。

< 行政評価と総合計画の関連図 >

行政評価と総合計画の関連図



【用語の解説】

- 「施策の柱」(第三次総合計画では「政策」)
基本構想に掲げているまちづくりの基本目標を実現するため、市が行う施策を大きく分類したもの。
- 「施策」
施策の柱(政策)の実現に向けて取り組む課題を明確にするために、それぞれの施策の柱の下に位置付けたもの。施策毎に目標値を設定するなどして達成度の評価を行います。
- 「基本事業」(新しい総合計画のみ該当)
施策の目的達成に向けて取り組む課題を明確にするために、それぞれの施策の下に「小施策」として位置付けたもの。施策と同様に達成度の評価を行います。
- 「事務事業」
基本事業の目的達成に向けて取り組むために、それぞれの基本事業の下に位置付けた約1,000の全事務事業のこと。毎年度事務事業評価を行い、改革改善を行いながら実施していきます。

(2) 行政評価は何のために行うのか

本市は、これまで、平成17年度を目標年次とし、平成7年度から平成16年度の10ヵ年を期間とする第三次総合計画によるまちづくりを行ってきました。

しかしながら、これまでの総合計画の運用にあたっては、どれだけの資源がそこに注がれ、どれだけの行政活動を行ったかという観点からの進行管理は行ってきたものの、行政目的の達成度やどのような成果があがっているかなどについての体系的な評価は行われてきませんでした。

そこで、行政活動の現状を把握し、目標値を定め、その活動の結果もたらされた成果や市民の満足度を重視し、これからの市政運営に活かすための手段の一つとして、行政評価システムを導入しました。

本市の行政評価システムの目的は次のように定めました。

市の仕事をマネジメント(企画、実施、評価)することによって、

- まちづくりの現状と課題を市民にわかりやすく伝えます。
～施策達成度の公表～
施策評価を実施し、その結果を市民に公表することにより、本市のまちづくりの現状と課題を市民にわかりやすく伝えます。
- まちづくり課題に優先順位を付けて、限られた資源を有効かつ効率的に使います。
～経営資源の有効活用～
財政状況が厳しい中、限りある資源(税金等の収入、人材、もの)をまちづくり課題の優先順位に沿って有効かつ効率的に使うことにより、より一層の効果を発揮できるようにします。
- 市の仕事をより価値のあるものへ改革改善し続けます。
～継続的な改革改善と人材開発の実践～
毎年市が行っている仕事を継続的に評価することにより改革改善を行うとともに、振り返りと改革改善を常に繰り返すことによって職員の政策形成能力を高め、より高い市政の運営ができるようにします。

[画面上へ](#)

(3) 行政評価によって何がかわるのか

行政評価は、単に経費削減を行うためではなく、市政の運営のあり方を根本から見直すためのものです。

また、評価結果を公表することにより、市民が市の政策・施策や事務事業など本市の行政活動について詳細に知る手がかりとし、市民の関心が高まることによって、市の仕事を効率的に、かつ、目標に向けて適切に進めるための推進力を導き出します。

(4) これまでの事務事業見直しとどこが違うのか

本市がこれまで毎年行ってきた事務事業の見直しは、事務事業を個別に見直す手法であり、主に事業を執行するうえでの無駄や効率性を点検し、事業の縮小や廃止を検討するものでした。

一方、行政評価は、個々の事務事業の点検に止まらず、各政策単位に施策の達成度や優先度を評価することによる事務事業の再編や予算配分の重点化など、市政運営全般の改革改善を図ろうとするものです。

(5) 評価結果を何に反映させるのか

行政評価の評価結果は、新しい総合計画の進行管理、予算の編成などに反映させていくこととしています。

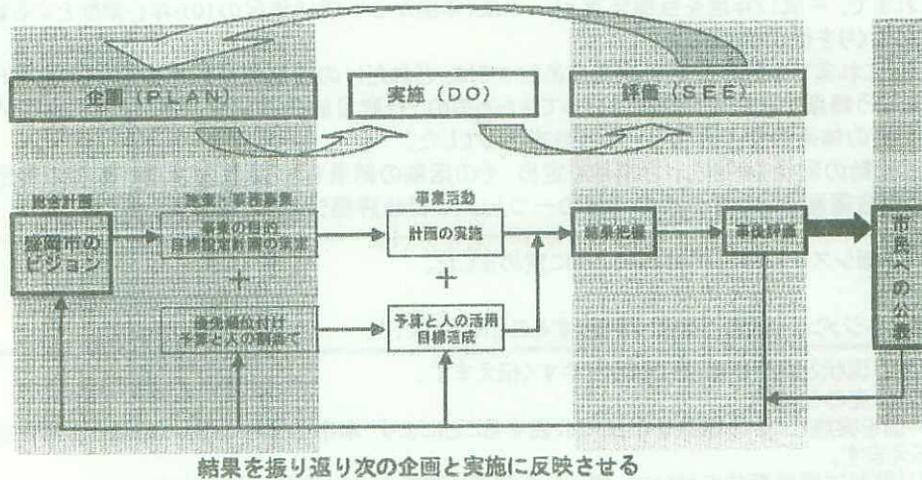
新しい総合計画については、新しい総合計画の各施策ごとに設定されている目標値と毎年度の評価結果を比較しながら、目標値の達成に向けた進行管理をしていきます。

予算編成については、評価結果に基づき翌年度の予算の重点配分施策、水準維持施策、配分抑制施策を決定し、施策毎に予算を配分する「施策毎予算枠配分方式」による予算編成を行います。

[画面上へ](#)

(6) どのような仕組みか

企画(PPLAN)→実施(DO)→評価(SEE)の循環(マネジメントサイクル)を確立し、市が行う行政活動についてたえず振り返りを行うことにより、次年度以降の企画の立案や予算編成に反映させていく仕組みです。

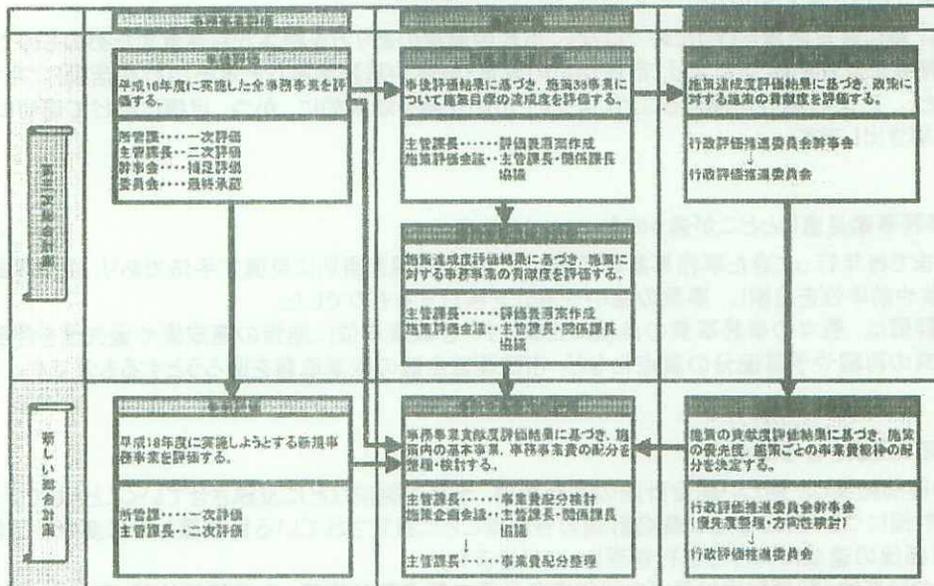


(7) 評価の体系はどのようなものか

平成17年度は、第三次総合計画政策体系を38施策に分け、そこに平成16年度に実施した1,066の事務事業を分類し、各層の評価を実施しました。

<平成17年度盛岡市の行政評価の体系>

H17年度盛岡市の行政評価の体系



【第三次総合計画】

1. 事務事業事後評価:平成16年度に実施した全事務事業を評価する。
2. 施策達成度評価:事務事業事後評価結果に基づき、38施策について施策目標の達成度を評価する。
3. 事務事業貢献度評価:施策達成度評価に基づき、施策に対する事務事業の貢献度を評価する。
4. 施策貢献度評価:施策達成度評価に基づき、政策に対する施策の貢献度を評価する。

【新しい総合計画】

5. 施策優先度評価:施策の貢献度評価結果に基づき、施策の優先度、施策ごとの事業費枠の配分を決定する。
6. 事務事業事前評価:平成18年度に実施しようとする新規事務事業を評価する。
7. 事務事業優先度評価:事務事業貢献度評価結果、施策優先度評価結果、事務事業事前評価結果に基づき、施策内の基本事業、事務事業費の配分を整理・検討する。

盛岡市市長公室行財政改革推進課

Copyright 2005 City of Morioka. All Rights Reserved.

業務内容	業務内容	業務内容	業務内容
<p>1. 市長公室の業務</p> <p>2. 市長公室の業務</p> <p>3. 市長公室の業務</p> <p>4. 市長公室の業務</p> <p>5. 市長公室の業務</p>	<p>1. 市長公室の業務</p> <p>2. 市長公室の業務</p> <p>3. 市長公室の業務</p> <p>4. 市長公室の業務</p> <p>5. 市長公室の業務</p>	<p>1. 市長公室の業務</p> <p>2. 市長公室の業務</p> <p>3. 市長公室の業務</p> <p>4. 市長公室の業務</p> <p>5. 市長公室の業務</p>	<p>1. 市長公室の業務</p> <p>2. 市長公室の業務</p> <p>3. 市長公室の業務</p> <p>4. 市長公室の業務</p> <p>5. 市長公室の業務</p>

■ 盛岡市の行財政構造改革

■ 行政評価

ウェブもりおか > 行政評価 > 行政評価について



行政評価について

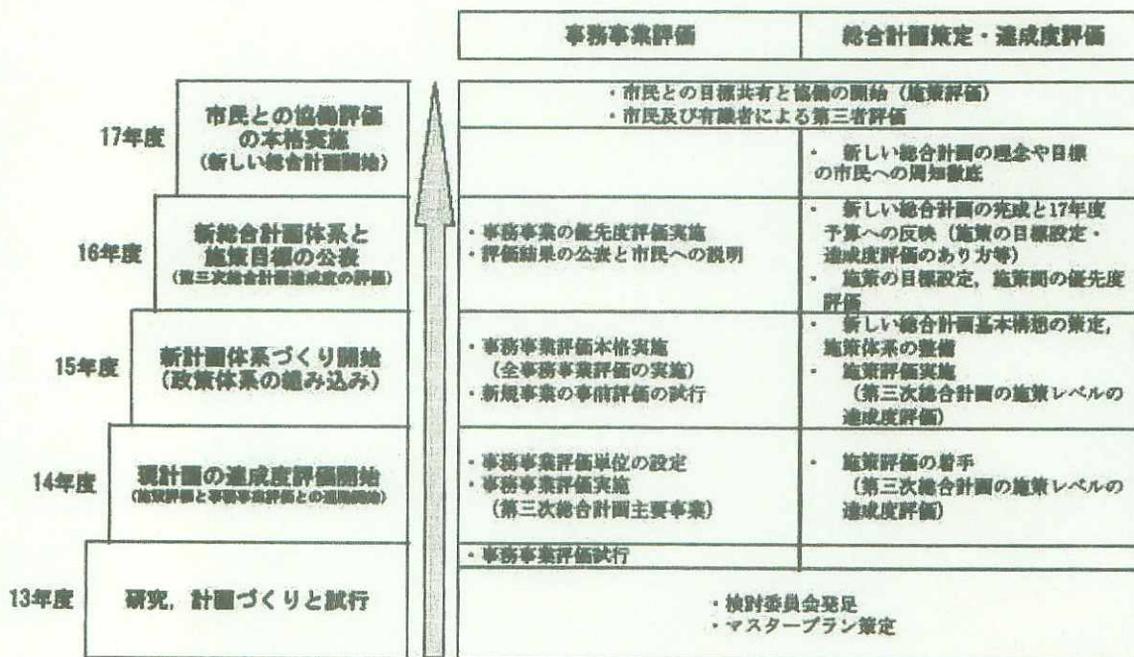
行政評価とは | 構築スケジュール | 評価体制 | 職員研修の状況

構築スケジュール

本市では、平成13年度から平成17年度の5年間で行政評価システムの構築に係る計画を策定し進めてきています。

平成16年度は、第三次総合計画に基づく施策の達成度評価、全事務事業の事後評価(振り返り評価)を実施するとともに、このシステムを活用した新しい総合計画を策定し、予算編成しました。

<行政評価システム構築スケジュール>



- 平成13年度: 研究、計画作りと試行
- 平成14年度: 現計画の達成度評価開始(施策評価と事務事業評価との連動開始)
- 平成15年度: 新計画体系づくり開始(政策体系の組み込み)
- 平成16年度: 新総合計画体系と施策目標の公表(第三次総合計画達成度の評価)
- 平成17年度: 市民との協働評価の本格実施(新しい総合計画開始)

画面上へ

評価体制

本市の行政評価の体制(組織における役割分担)は次のとおりです。

- 行政評価推進委員会
 - 市長を筆頭に助役、収入役、教育長、水道事業管理者、各部の部長等の幹部層からなる行政評価推進委員会は、市の経営の基本方針を決定し、施策の組み立てや優先順位付けを行い、予算の配分を行います。
- 行政評価推進委員会幹事会
 - 委員会が委任した事項の調査審議や施策の貢献度評価等を行います。
- 施策主管課長

事務事業評価の二次評価、施策の達成度評価を行い、前年度に行った市の行政活動の振り返りを行い、目標達成に責任を持ち事務事業を統括します。

また事務事業の優先度評価を行い、翌年度の事務事業の予算の調整を行います。

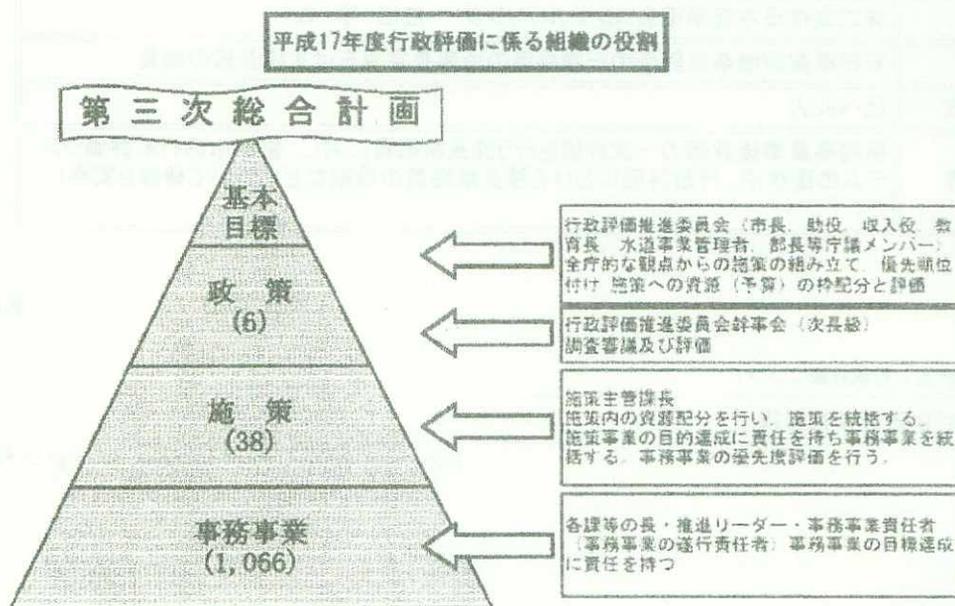
・各課等の長、推進リーダー、事務事業責任者

実際に事業を担当する課の長は、事務事業の目標達成に責任を持ち、事務事業の振り返り評価の一次評価を行います。

推進リーダーは、主に課長補佐が担い、各事務事業の遂行、評価にあたり指導・助言を行います。

事務事業責任者は、各事務事業を遂行するにあたり進行管理に責任を持ち、事務事業の振り返り評価を行い評価シートを作成します。

<平成17年度行政評価に係る組織の役割>



画面上へ

職員の研修状況

行政評価の実施にあたっては、評価の質を高め評価体制を有効に機能させていくために、各職員が評価体制のなかでのそれぞれの役割に応じた研修を受講しています。平成17年度行政評価の実施にあたり職員が受講した研修は以下のとおりです。

1. 行政評価一般職員研修会

期 日	2005年3月9日（水曜日）から11日（金曜日）までの3日間
講 師	株式会社日本能率協会コンサルティング 佐伯 学 氏
対象者	これまで研修を受講していない副主幹、係長及び主事級の職員
受講者数	延べ97人
研修内容	事務事業評価シートを作成する各課等の職員に対し、盛岡市の行政評価システムの現状や評価シート作成上の留意事項について研修を実施した。

2. 行政評価推進リーダー研修会

期 日	2005年4月19日(火曜日)
講 師	株式会社日本能率協会コンサルティング 佐伯 学 氏
対象者	各課等の行政評価推進リーダー(課長補佐級の職員)
受講者数	延べ69人
研修内容	各課等で行政評価の作業の中心となる推進リーダーに対し、盛岡市の行政評価システムの現状や推進リーダーの役割、行政評価の作業上の留意事項などについて研修を実施した。

3. 行政評価に係る課長級研修会

期 日	2005年4月20日(水曜日)
講 師	株式会社日本能率協会コンサルティング 佐伯 学 氏
対象者	事務事業評価事後評価の一次評価の所属長意見を付す課長級の職員
受講者数	延べ92人
研修内容	事務事業事後評価の一次評価を行う課長級職員に対し、盛岡市の行政評価システムの現状や、行政評価における課長級職員の役割などについて研修を実施した。

[画面上へ](#)

[ウェブもりおか](#) > [行政評価](#) > [行政評価について](#)

盛岡市市長公室行財政改革推進課

Copyright 2005 City of Morioka. All Rights Reserved.

平成17年度振り返り評価結果について

施策の達成度評価 | 施策の貢献度評価 | 事務事業評価

事務事業評価

平成16年度に盛岡市が行ったすべての行政活動(事務事業)を38の施策毎に振り分け、それぞれの事業の対象、手段、意図(目的)を明確にし、目標とする成果指標を設定し、事務事業の進め方、効率性、向上余地等について評価(振り返り)を実施しました。

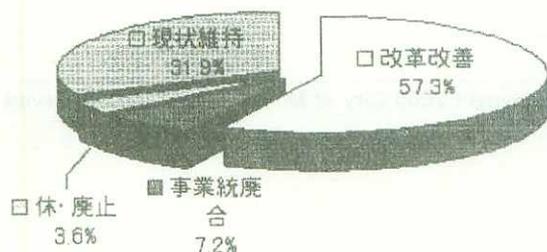


>>平成17年度事務事業評価結果シート

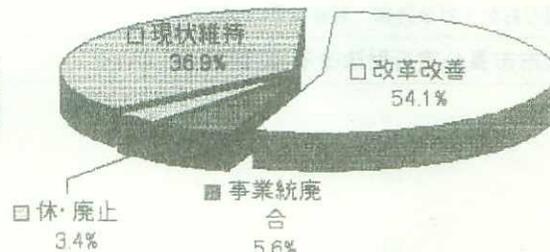
平成17年度の事務事業評価の結果は、平成16年度の結果と比較すると以下のようになっています。「改革改善を行う」と評価された事業の割合が、平成17年度は平成16年度に比べて3.2ポイント増加したほか、「事業の休・廃止」の割合は0.2ポイント増加、「事業統廃合」の割合は1.6ポイント増加しています。一方で、「現状維持」と評価された事業の割合が、平成17年度は平成16年度に比べて5.0ポイント減少しており、事務事業を見直す動きが進んでいます。

		平成17年度		平成16年度	
		事務事業数(件)	割合(%)	事務事業数(件)	割合(%)
事業の休・廃止(終了を含む。)		38	3.6	37	3.4
継続	(事業統廃合)	77	7.2	61	5.6
	(改革改善を行う)	611	57.3	590	54.1
	(現状維持)	340	31.9	402	36.9
合計		1,066	100.0	1,090	100.0

H17事務事業評価結果



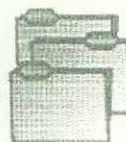
H16事務事業評価結果



[画面上へ](#)

施策の達成度評価

本市では、平成17年を目標年次とする第三次総合計画の都市づくりの目標として、「人が集い活力に満ちた北東北の交流拠点都市」「豊かな人間性をはぐくみ世界にひかれた教育文化都市」「恵まれた自然とともに生き互いにささえあう健康福祉都市」の3つを掲げ、6つの政策の下で各種の施策を実施してきました。



これらの施策を38に分類・整理し、各施策毎に対象、意図(目的)、成果指標を設定し、第三次総合計画の開始年度である平成7年度と平成16年度を比較することにより施策の達成度を評価しました。

また、平成16年度が第三次総合計画の実施最終年度であったことから、今回は特に「第三次総合計画の振り返りについて」と「新総合計画への申し送り事項」の2点についても記述しました。

>>平成17年度施策達成度評価結果シート

[画面上へ](#)

施策の貢献度評価

市長、助役、収入役、教育長、水道事業管理者、各部長等で組織する行政評価推進委員会と、委員会の下部組織にあたり各部の次長級で構成する行政評価推進委員会幹事会において、それぞれ4グループに分かれ、施策達成度評価結果を基に議論しながら施策の政策に対する貢献度評価(振り返り)を実施しました。

評価の内容は、「成果実績の水準」と「成果向上に市の施策が及ぼす影響力」の2点から行いました。

「成果実績の水準」について5段階の点数化により評価合計点を算出しました。

1. 経年比較

第三次総合計画の開始年次である平成7年度と平成16年度の結果を比較検討する。

2. 近隣等比較

施策により、東北の各県庁所在都市との比較、北東北3県の盛岡市と同規模の都市との比較、盛岡市と市町村境を接する近隣町村との比較などにより比較検討する。

3. 住民期待比較

住民アンケート、まちづくり懇談会等市民からの声を聞いた結果について比較検討する。

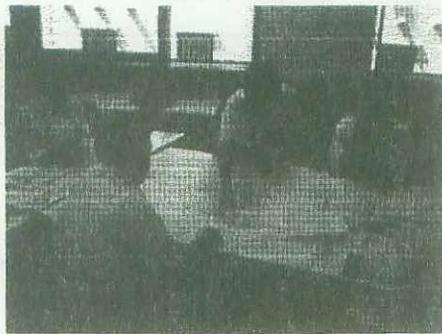
以上3点の成果実績水準から施策の政策に対する貢献度評価を行いました。

また、「成果向上に市の施策が及ぼす影響力」を4段階で評価しました。

[>>平成17年度施策の貢献度評価\(振り返り\)結果集計表](#)

これらを総合的に判断したものが次のシートになります。

[>>施策の貢献度評価\(振り返り\)結果シート](#)



[画面上へ](#)

[ウェブもりおか](#) > [行政評価](#) > [評価結果について](#)

盛岡市市長公室行財政改革推進課

Copyright 2005 City of Morioka. All Rights Reserved.

平成17年度施策の貢献度評価(振り返り)結果集計表

行政評価推進委員会及び行政評価推進委員会幹事会の計8グループにより行った貢献度評価の集計表です。
8グループそれぞれに行った評価の結果を集計し、各項目について最も多数を占めた評価内容を表記しています。

1 成果実績の水準 | 2 成果向上に市の施策が及ぼす影響力等

1 成果実績の水準

No	施策名	前後(経年)比較	近隣自治体比較	住民期待比較	総合評価
		平成7年度(第三次総合計画初年度)と比較した成果実績の水準	近隣他市町村と比較した成果実績の水準	市民の期待に対する成果実績の水準	左の3つの評価の合計
1	土地利用計画の推進	どちらかと言えば高くなった	どちらかと言えば高い水準である	どちらかと言えば低い	やや高い
2	市街地の整備	高くなった	どちらかと言えば高い水準である	どちらかと言えば低い	高い
3	総合交通体系の整備	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	標準
4	情報通信機能の整備	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	やや高い
5	農林業の振興	どちらかと言えば低くなった	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	低い
6	工業の振興	どちらかと言えば低くなった	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	低い
7	商業・サービス業の振興	どちらかと言えば低くなった	どちらかと言えば高い水準である	ほぼ同水準である	標準
8	観光・物産の振興	ほぼ同じ水準で変わらない	どちらかと言えば低い水準である	どちらかと言えば低い	低い
9	勤労者福祉の充実	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	やや高い
10	生涯学習の推進 (生涯学習環境の整備)	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	標準
11	生涯学習の推進 (学校教育の充実)	ほぼ同じ水準で変わらない	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	標準
12	生涯学習の推進 (社会教育の充実・スポレクの振興)	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	やや高い
13	生涯学習の推進 (文化の振興)	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	やや高い
14	国際交流の推進	ほぼ同じ水準で変わらない	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	標準
15	研究学園都市の形成	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	やや高い
16	生活環境の整備 (生活道路)	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	標準

17	生活環境の整備 (住宅)	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	やや高い
18	生活環境の整備 (公園緑地)	どちらかと言えば高くなった	どちらかと言えば低い水準である	ほぼ同水準である	標準
19	生活環境の整備 (上水道)	どちらかと言えば高くなった	どちらかと言えば高い水準である	ほぼ同水準である	高い
20	生活環境の整備 (下水道)	高くなった	どちらかと言えば高い水準である	どちらかと言えば低い	高い
21	生活環境の整備 (廃棄物処理)	どちらかと言えば高くなった	どちらかと言えば高い水準である	どちらかと言えば低い	やや高い
22	生活環境の整備 (火葬場・墓園)	どちらかと言えば高くなった	どちらかと言えば低い水準である	どちらかと言えば低い	やや低い
23	市民生活の安全確保 (防犯・交通安全の推進)	どちらかと言えば低くなった	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	低い
24	市民生活の安全確保 (消防・救急体制の充実)	どちらかと言えば高くなった	どちらかと言えば高い水準である	どちらかと言えば高い	高い
25	市民生活の安全確保 (自然災害の防止)	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	標準
26	快適な都市環境の創出 (自然・歴史的環境の保全と活用)	ほぼ同じ水準で変わらない	どちらかと言えば高い水準である	ほぼ同水準である	やや高い
27	快適な都市環境の創出 (都市景観の形成)	ほぼ同じ水準で変わらない	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	やや低い
28	快適な都市環境の創出 (花と緑のまちづくり)	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	標準
29	快適な都市環境の創出 (公害の防止)	ほぼ同じ水準で変わらない	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	標準
30	コミュニティづくりの促進	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	標準
31	市民福祉の充実	ほぼ同じ水準で変わらない	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	やや低い
32	高齢者福祉の充実	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	標準
33	保健・医療の充実	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	どちらかと言えば低い	標準
34	市民参加の促進	ほぼ同じ水準で変わらない	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	標準
35	行財政運営の効率化	どちらかと言えば低くなった	どちらかと言えば低い水準である	どちらかと言えば低い	低い
36	イメージアップの推進	ほぼ同じ水準で変わらない	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	標準
37	広域行政の推進	ほぼ同じ水準で変わらない	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	標準
38	地方分権の促進	どちらかと言えば高くなった	ほぼ同水準である	ほぼ同水準である	やや高い

画面上へ

2 成果向上に市の施策が及ぼす影響力等

No	施策名	成果向上に市の施策が及ぼす影響力	重点化施策との関連	施策の成果向上余地
		施策の成果を向上させる際に、市としてどれくらいの裁量余地があるか	「新たな政策課題に対応した重点化施策(※)」の推進に施策がどの程度結びついているか	施策の成果を向上させる余地がどれくらいあるか
1	土地利用計画の推進	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
2	市街地の整備	どちらかと言えば大きい	直結するが不透明さもある	かなりある
3	総合交通体系の整備	どちらかと言えば大きい	直結するが不透明さもある	かなりある
4	情報通信機能の整備	少ない(住民が主体)	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば小さい
5	農林業の振興	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
6	工業の振興	どちらかと言えば大きい	直結するが不透明さもある	どちらかと言えば大きい
7	商業・サービス業の振興	少ない(住民が主体)	直結する	どちらかと言えば大きい
8	観光・物産の振興	どちらかと言えば大きい	直結する	どちらかと言えば大きい
9	勤労者福祉の充実	少ない(住民が主体)	直結するが不透明さもある	どちらかと言えば大きい
10	生涯学習の推進 (生涯学習環境の整備)	かなり大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
11	生涯学習の推進 (学校教育の充実)	どちらかと言えば大きい	直結する	どちらかと言えば大きい
12	生涯学習の推進 (社会教育の充実・スポレクの振興)	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
13	生涯学習の推進 (文化の振興)	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
14	国際交流の推進	少ない(住民が主体)	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば小さい
15	研究学園都市の形成	どちらかと言えば大きい	直結するが不透明さもある	どちらかと言えば大きい
16	生活環境の整備 (生活道路)	かなり大きい	直結する	かなりある
17	生活環境の整備 (住宅)	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
18	生活環境の整備 (公園緑地)	どちらかと言えば大きい	直結する	どちらかと言えば大きい
19	生活環境の整備 (上水道)	かなり大きい	結びつかないし、影響もあまりない	ほとんどない
20	生活環境の整備 (下水道)	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば小さい
21	生活環境の整備 (廃棄物処理)	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
22	生活環境の整備 (火葬場・墓園)	かなり大きい	結びつかないし、影響もあまりない	かなりある
23	市民生活の安全確保 (防犯・交通安全の推進)	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい

24	市民生活の安全確保 (消防・救急体制の充実)	かなり大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
25	市民生活の安全確保 (自然災害の防止)	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	かなりある
26	快適な都市環境の創出 (自然・歴史的環境の保全と活用)	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
27	快適な都市環境の創出 (都市景観の形成)	どちらかと言えば大きい	直結するが不透明さもある	どちらかと言えば大きい
28	快適な都市環境の創出 (花と緑のまちづくり)	かなり大きい	直結する	かなりある
29	快適な都市環境の創出 (公害の防止)	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば小さい
30	コミュニティづくりの促進	少ない(住民が主体)	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
31	市民福祉の充実	少ない(国や県が主体)	直結する	どちらかと言えば大きい
32	高齢者福祉の充実	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
33	保健・医療の充実	どちらかと言えば大きい	必ずしも直接は結びつかない	どちらかと言えば大きい
34	市民参加の促進	どちらかと言えば大きい	直結する	どちらかと言えば大きい
35	行財政運営の効率化	かなり大きい	直結する	かなりある
36	イメージアップの推進	どちらかと言えば大きい	直結する	どちらかと言えば大きい
37	広域行政の推進	どちらかと言えば大きい	直結する	どちらかと言えば大きい
38	地方分権の促進	どちらかと言えば大きい	直結するが不透明さもある	どちらかと言えば大きい

※「新たな政策課題に対応した重点化施策」とは？

2004年3月に市が策定した「新たな政策課題に対応した重点化施策(方針)」のことです。第三次盛岡市総合計画に基づく事業の推進に併せ、新しい視点での市政の展開を目指し、緊急かつ重点的に取り組むべきものを以下の通りとりまとめています。

- 1 優先プロジェクトー緊急課題として庁内横断的に取り組む施策
 - ・ 雇用対策に関する推進プロジェクト
 - ・ 盛岡ブランドの確立に関する推進プロジェクト
 - ・ ガーデン都市づくりに関する推進プロジェクト
- 2 分野別の重点施策ー市民ニーズが高い分野で重点的に取り組む施策
 - ・ 子育て支援と地域福祉の推進
 - ・ 次代を担う人材の育成
 - ・ 暮らしやすい、環境にやさしい都市の創造
 - ・ 市民に関かれた理想の県都の創造

画面上へ

ウェブもりおか > 行政評価 > 貢献度評価結果集計表

盛岡市市長公室行財政改革推進課

Copyright 2005 City of Morioka. All Rights Reserved.

■ 施策の貢献度評価(振り返り)結果シート

施策の貢献度評価(「成果実績の水準」及び「成果向上に市の施策が及ぼす影響力」についての評価)を総合的に表したシートです。

← 成果向上に市の施策が及ぼす影響力 →				
	かなり大きい (市全体)	やや大きい (市全体・他団体)	やや小さい (国・県主体)	小さい (住民の取組み主体)
↑ 成果水準 ↓	高い	IV-19 上水道 IV-24 消防・防災体制の充実	I-02 市街地の整備 IV-20 下水道 IV-26 自然・歴史的環境の保全と活用	
	やや高い	Ⅲ-10 生涯学習環境の整備	I-01 土地利用計画の推進 Ⅲ-12 社会教育の充実・スポレクの振興 Ⅲ-13 文化の振興 Ⅲ-15 研究学園都市の形成 IV-17 住宅 IV-21 廃棄物処理 VI-38 地方分権の促進	I-04 情報通信機能の整備
	普通	IV-16 生活道路 IV-22 火葬場・墓園 IV-28 花と緑のまちづくり	I-03 総合交通体系の整備 Ⅲ-11 学校教育の充実 IV-18 公園緑地 IV-25 自然災害の防止 IV-29 公害の防止 V-32 高齢者福祉の充実 V-33 保健・医療の充実 VI-34 市民参加の促進 VI-36 イメージアップの推進 VI-37 広域行政の推進	Ⅱ-07 商業・サービス業の振興 Ⅱ-09 勤労者福祉の充実 Ⅲ-14 国際交流の推進 V-30 コミュニティづくりの促進
	やや低い		IV-27 都市景観の形成	V-31 市民福祉の充実
	低い	VI-35 行財政運営の効率化	Ⅱ-05 農林業の振興 Ⅱ-06 工業の振興 Ⅱ-08 観光・物産の振興 IV-23 防犯・交通安全の推進	

今後は、この評価結果をもとに施策の優先度評価を実施し、平成18年度施策の重点化基本方針及び平成18年度予算編成方針を策定していきます。

[画面上へ](#)